

ひと

みんなでつくる

ゆめ

水と緑の

まち

わがまちこまえ

広報こまえ 市制施行30周年特集号



市民参加でつくられた前原公園

狛江市が誕生してから30年。田園風景の広がる地方都市から、小田急線立体化、狛江駅北口整備、下水道の整備やあいびあセンター建設など、都市基盤が整えられ、首都近郊の近代的な都市へと発展してきました。

人間で30歳といえば、直線的に生きてきた青春時代から、幅の広がった円熟世代に入つていきます。狛江市も30年の到達点をふまえながら、どのような都市像を描いていくのか、あらためて考えていく時期です。

私はこの4年間、「市民と行政との協働」をキーワードに、市政を運営してきました。市民と行政が、立場の違いを認め合いながら、それぞれの役割と責任をもちつくりで果たしていくというものです。すでに公園建設、環境や都市計画でのマスタープランづくり、学校の統合協議など、大きな成果を収めています。こうした多彩な「協働」は、長年の市民活動の積み重ねやお互いの信頼関係が生み出したものです。これらを土台に、誰もが「私のまち」と愛着を持てるような狛江を築きたいと願っています。新世紀の子どもたちに、故郷と誇れるまちを引き継ぐため、手を携えさらに進みましょう。

狛江市長

矢野ゆたか

市制施行30周年おめでとうございます。多摩川の流れとともに歩み続けてきた狛江市は、昭和45年10月1日の市制施行から、今年で満30年を迎えました。

先人たちの弛まぬ努力により、田園の緑から都市基盤であるインフラ整備等（上下水道、都市ガス誘致、小田急線連続立体化、駅周辺整備）の早期の完成によって、現在の様な近代都市として発展してまいりました。

今、21世紀を目前にし、さらに安心、安全な活力のあるまちづくりを進めるとともに、急激に進む少子高齢化の方策の一層の充実を早期に解決しなければなりません。

私も市議会も狛江市の将来の都市像「水と緑の住宅都市」の構築と、環境問題、各種福祉施策の充実のために、市民の皆様とともに努力してまいります。

今後とも、市議会活動に対する市民の皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げ、挨拶いたします。

狛市議会議長

栗山久一

平成 3 年 2 月 総合基本計画策定
 平成 3 年 4 月 ねたきり老人おむつ貸与およびおむつ代助成事業実施
 平成 3 年 4 月 痴呆性高齢者短期保護事業実施
 平成 3 年 4 月 身体障害者用三輪自転車購入費助成事業実施
 平成 3 年 4 月 心身障害者団体等事業補助金交付事業実施
 平成 3 年 4 月 点字図書給付事業実施
 成 3 年 4 月 西河原自然公園開園
 成 3 年 6 月 第 1 回ほおずき市開催
 成 3 年 7 月 病後児保育事業開始
 3 年 9 月 暴力団排除宣言
 3 年 10 月 住民基本台帳の漢字オンラインシステム導入
 3 年 11 月 根川地区センターオープン
 年 12 月 旧狛江駅舎閉鎖
 年 3 月 あいとびあレインボープラン（狛江市地域福祉計画）策定
 年 3 月 狛江市消防団第 1 分団機具置場建替
 4 月 身体障害者短期入所事業実施
 4 月 国際交流事業（フレンズ）実施
 4 月 岩戸児童センター建替
 月 印鑑登録システム導入
 月 ローマ字入り住居表示を設置
 月 押印廃止
 岩戸川せせらぎ開設
 高齢者・重度身体障害者緊急通報装置および装置使用料助成事業実施
 景気対策事業特別支援資金貸付制度開始

シルバーピアいわど開設
 第 1 回あいとびあ福祉まつり開始
 狛江市個人情報保護条例制定
 野川樹林地開園
 戸橋公園開園
 江市福祉基本条例制定
 総合相談窓口開設
 原公民館オープン
 対策小企業等経営改善資金利子補助金交付制度開始
 農業振興計画策定
 樹林地開園
 せせらぎ下流公園開園
 み品目別有料化の実施
 ン缶リサイクルセンターオープン
 棄物の再利用の促進および処理に関する条例制定
 ネットワークシステム導入
 環境保全行動計画策定
 なくなる
 人ホームこまえ苑オープン
 事業（ショートステイ、デイサービス、在宅介護相談等）開始
 害者（児）おむつ貸与等事業実施
 下駐車場オープン
 レオープン
 計画策定
 分団機具置場建替
 場完成
 所訓練事業実施
 入
 オープン
 住区画整理事業開始
 ショートステイ事業実施

定
 事業完了
 ム開設
 策定

ども発達教室「ばる」実施
 ーション開設
 ーでデイサービス事業開始

業開始
 定

開発事業）完了

る条例制定
 始
 始

事業実施

30 周年

ゆめまち わがまちこまえ

水と緑の

狛江市は、昭和 45 年 10 月市制施行し、今年で 30 周年を迎えました。

市民が安心して暮らせる安全なまちづくりを目標にし、懸案であった道路の整備や小田急線立体化事業により交通渋滞がなくなりました。また、高齢化社会に対応して、特別養護老人ホーム「こまえ苑」や健康福祉会館「あいとびあセンター」を完成させ福祉の充実を図ってきました。

ここに、10 年間の歩みとして、主な出来事をまとめてみました。

村から現在への変遷

明治 22 年、和泉村、猪方村、岩戸村、駒井村、覚東村、小足立村の 6 村が合併して狛江村となりました。当時の人は 2,207 人で、まだ神奈川県に属しており、東京府へ編入されたのはさらに 4 年がたった明治 26 年のことです。昭和 2 年、小田急線が開通。和泉多摩川駅と狛江駅が開設されたことによって新しい住民がしだいに増えてきました。第二次世界大戦が終わって昭和 27 年 11 月、町制が施行される頃にはこの動きはさらに顕著になり、昭和 45 年 10 月狛江市となりました。

その後も狛江市は住みよいまちづくりを進めてきましたが、特にこの 10 年間は狛江の歴史の中で、最も変容した時期と言われるほど都市基盤整備を飛躍的に進め、21 世紀を迎えるにふさわしいまちとなりました。

- エコルマホール（市民ホール）（上）
- 狛江駅北口交通広場（下）

小田急線の高架化事業の完成のもと新しい狛江の顔として大きく生まれ変わりました。広いバスターミナルと 3 つの再開発ビルが建設されました。その一つのエコルマビルの 4 階から 6 階に市民の文化・芸術活動の拠点として、また一流アーティストの鑑賞の場としてエコルマホールが設置され、市内外の方から親しまれています。

- 特別養護老人ホーム
こまえ苑

家庭に引きこもりがちなあるいは心身に障害のある高齢者に必要な福祉サービスの提供や、介護にあたっている家族の応援をしています。

- ビン・缶リサイクルセンター

音、臭気等を完全に防ぎ周辺環境に合った構造とデザインで建設され、各戸から収集したビンと缶を選別し、リサイクルをしています。



文化との出会い



エコルマホール（平成7年）

クラシックで世界的に有名な方が狛江に来る。

狛江市にエコルマホールが出来て、市民の人達が狂言などの日本文化だけでなく、ヨーロッパなどの文化に触れる機会が多くなってきました。いいことだなと感じています。狛江駅のすぐ横で、電車やバスの交通機関が充実していて、多くの方が来やすい所で、更に入場料が安いときています。欲を言うと、学生割引をして、学生が、普段触れる事の出来ない文化に出会えば、もっと違った別の世界が広がると思います。

竹島さん（女性 東和泉在住）



狛江駅（平成10年）

便利できれいなまち

以前の狛江駅前は、商店が少なく、比較的静かなまちでした。それに比べると小田急線の複々線化により、駅前の北口広場には、バスロータリーができたり、大型店舗や高架下には商店ができて、買い物をするのに大変便利になりましたが、今まで住み慣れた古いまちなみがなくなり、ちょっと寂しくなった感じもあります。

全国で3番目に小さいまちですから、昔からの歴史を活かし、活気に満ちた個性のある「これぞ狛江」というようなまちになってもらいたいです。

樋口さん（男性 和泉本町在住）

すっきり整頓されたまち

狛江に来てから7年位たちますが、以前と比較すると、とてもすっきり整頓されたまちになって、駅ビルができたので、夜遅くまで営業しているので、買い物が夜遅くまでできるのでとても便利になった。また、以前は踏切があったので、不便を感じたが高架になって、非常に行き来がしやすくなった。

今は、駅前にはコンビニがないので、コンビニがあったらいいなあと思います。

中村さん（女性 元和泉在住）

楽しみが得られる

私には健康不安はありませんでした。でも、数年前から動悸がして疲れやすくなって体力が落ちてきたので、なにか運動をしなければと思い、「健康づくりセミナー」に参加することにしました。

専門のトレーナーによる体力チェックと運動処方により、体にあった指導を受け、今では、気分がさわやかになり、何をするにも気力ができました。他にもプールや入浴施設も利用させていただいています。

あいとぴあセンターがある限り楽しみが得られると思います。

淵上さん（女性 駒井町在住）



あいとぴあセンター（平成8年）

暮らしに生かそうリサイクル

ビン・缶リサイクルセンターは平成6年市民の期待を担ってビン、缶のリサイクル施設として開設されました。ロビーには、ごみ減量に関する資料や電動式生ごみ処理機が展示されています。また、助成金の相談も受けられ、微生物による「ばかし」の有機肥料化の指導もしてくれます。

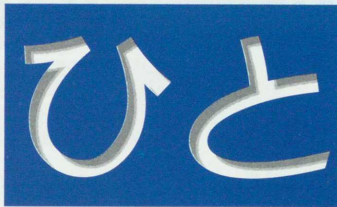
この施設は私たち市民のリサイクルのセンターです。見学や相談を通して資源となるごみを知りリサイクルの輪を広げる市民の活動の拠点として大いに発展してもらいたいと願っています。

宮澤さん（女性 東野川在住）

ビン・缶リサイクルセンター（平成6年）



ここでは、10年間のまちの移り変わり、いくつかの新しい施設を利用している市民の方々からご意見や将来についてお聞きしました。



みんなでつくる

世間が広く

今の自分は、人の手を借りることが多くなってきました。入浴も介助してもらってます。体が不自由になってからは、なかなか、人の中に入っていくことができず、人との交流が少なくなってきました。しかし、こまえ苑に通いだしてから世間が広くなりました。こまえ苑に通う大勢の仲間の人達と愚痴を語り合い、俳句、書道、絵画や歌などを習い、楽しい時を過ごせることが、今、一番嬉しく楽しいことです。

励ましたり、励まされたり、支えられたり、ありがたいです。

樋田さん（男性 駒井町在住）

夢がかなった

私がこの世の中で一番不幸だと思っていました。

しかし、こまえ苑に通いしたら、もっと身体の不自由な方がおりました。その方々は、職員の方々の指導や通所者の皆さんに励まされ、頑張って少しずつ良くなって来ています。その姿を見て、また、皆さんの人生論を聞いて、私だけではない、自分も頑張れると思うようになり、一人暮らしの不安も解消しました。

今、大正琴を活動の中で習い始めています。子どものころからやってみたかったものでした。

こまえ苑で夢がかないました。

鐘撞さん（女性 猪方在住）



こまえ苑（平成7年）